

《最近の県内経済》(2022年8月を中心として)

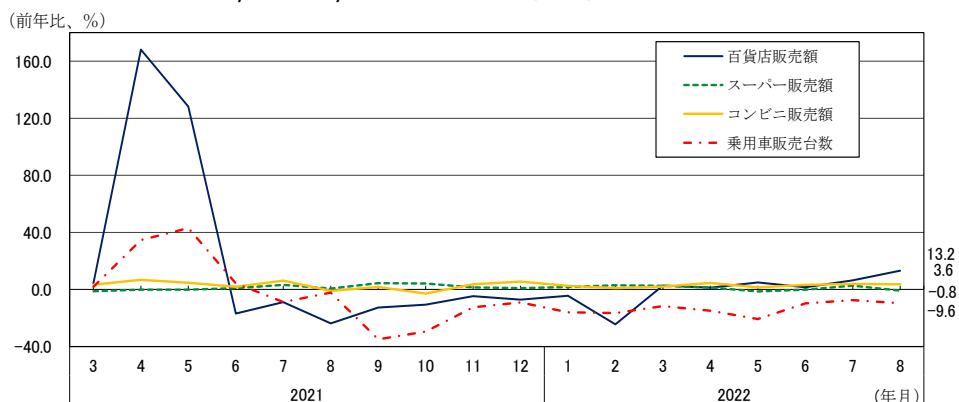
令和4年10月24日

今月の概要

緩やかに持ち直している。

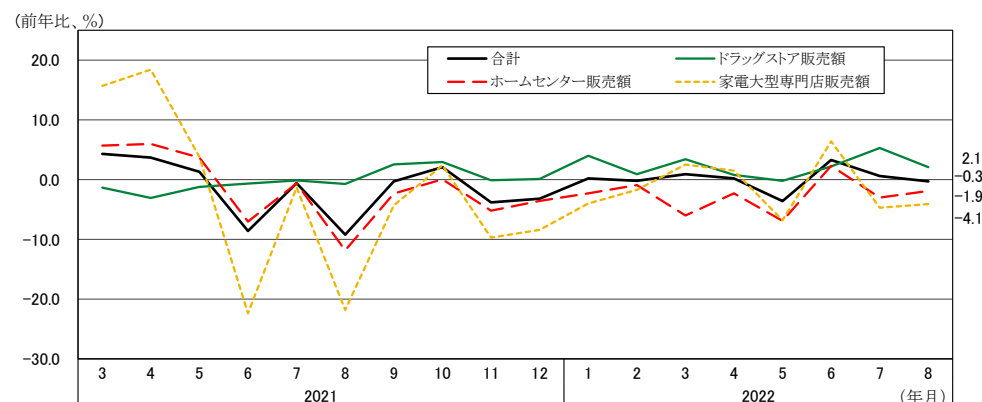
1 個人消費 ～持ち直しの動きが続いている

百貨店/スーパー/コンビニ販売額、乗用車販売台数【前年比】



(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

専門量販店販売額【前年比】



(資料) 経済産業省

個人消費は、持ち直しの動きが続いている。

8月の百貨店およびスーパーの販売額(店舗調整前)は、百貨店が103億円で前年比13.2%増(6か月連続の増加、緊急事態宣言による休業の影響を除き2019年9月以来の2桁増)、スーパーは1,004億円で同0.8%減(2か月ぶりの減少)となった。また、コンビニ販売は574億円で同3.6%増と、10か月連続の増加となった。

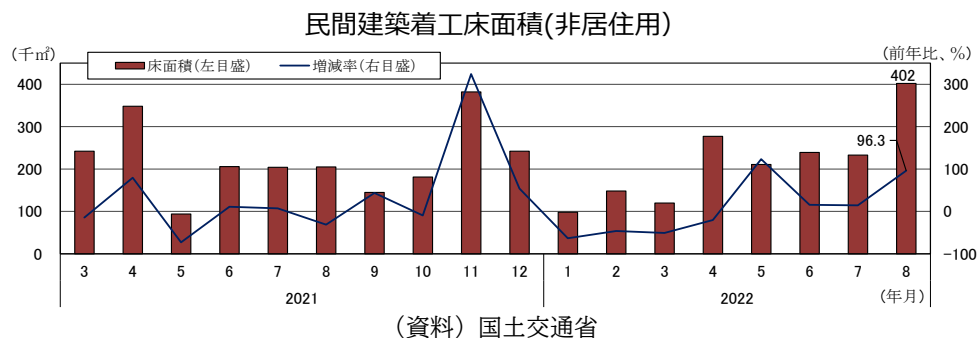
また、乗用車販売は、前年比9.6%減と14か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車(同3.3%減)が12か月連続の減少となったほか、小型車(同17.2%減)は15か月連続の減少、軽乗用車(同10.8%減)も3か月ぶりの減少となった。

百貨店・スーパー、コンビニでは、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加したにもかかわらず行動制限がない中、売上が回復している。

8月の専門量販店販売額は、746億円で前年比0.3%減となった。内訳をみると家電大型専門店が170億円で同4.1%減(2か月連続の減少)、ドラッグストアが401億円で同2.1%増(3か月連続の増加)、ホームセンターが175億円で同1.9%減(2か月連続の減少)となった。

関東1都6県の消費者態度指数(原数値)は、7月<30.1>、8月<32.1>、9月<31.2>で推移している。

2 設備投資 ~持ち直している

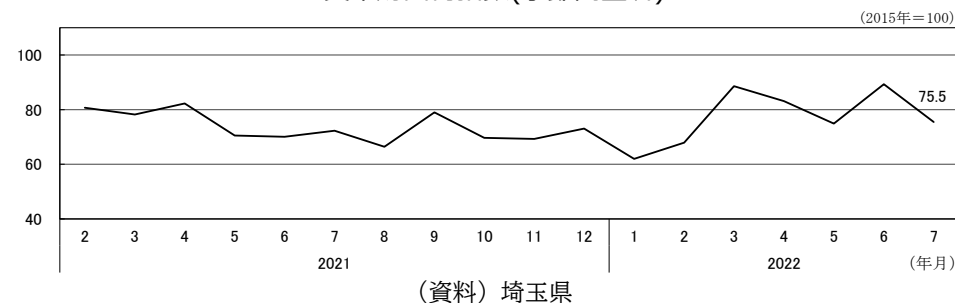


8月の民間建築着工床面積(非居住用)は、402千㎡で前年比96.3%増となった(5か月後方移動平均では前年比28.8%増)。

用途別にみると、工場及び作業場が減少したものの、事務所、店舗、倉庫、学校の校舎、病院・診療所はいずれも増加した。

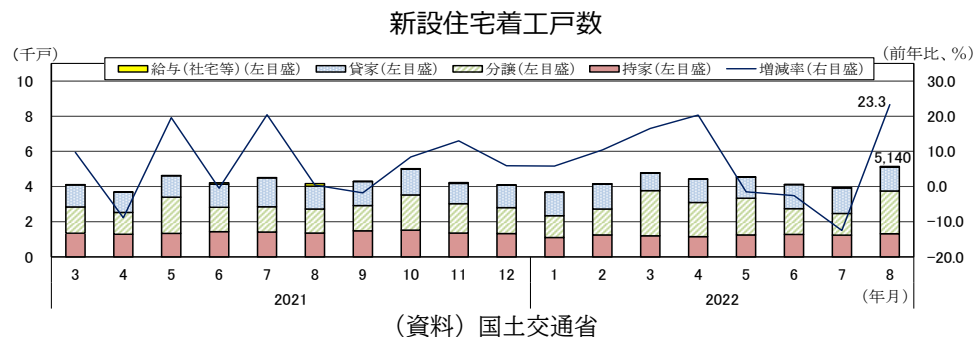
旺盛な半導体関連需要やEコマース関連需要に加えて、コロナ禍で見送りの案件の実行も幅広い業種でみられる。

資本財出荷指数(季節調整済)



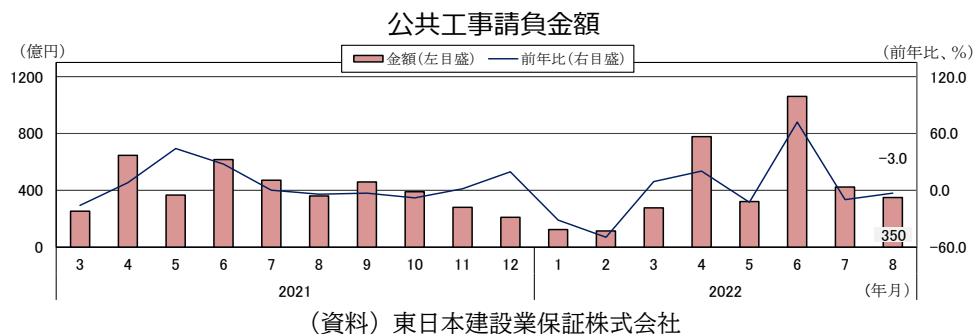
7月の資本財出荷指数(季節調整済)は75.5で、前月比15.5%減と2か月ぶりの減少となった(5か月後方移動平均では、前年比1.5%増)。

3 住宅建設 ~底堅い動きとなっている



8月の新設住宅着工戸数は、5,140戸で前年比23.3%増と4か月ぶりの増加となった(5か月後方移動平均では4.6%増、16か月連続の増加)。利用関係別にみると、持家(1,318戸)が同2.7%減少となったものの、貸家(1,350戸)が同4.2%増、分譲一戸建(1,369戸)が同17.8%増、分譲マンション(1,063戸)が同426.2%増といずれも増加した。

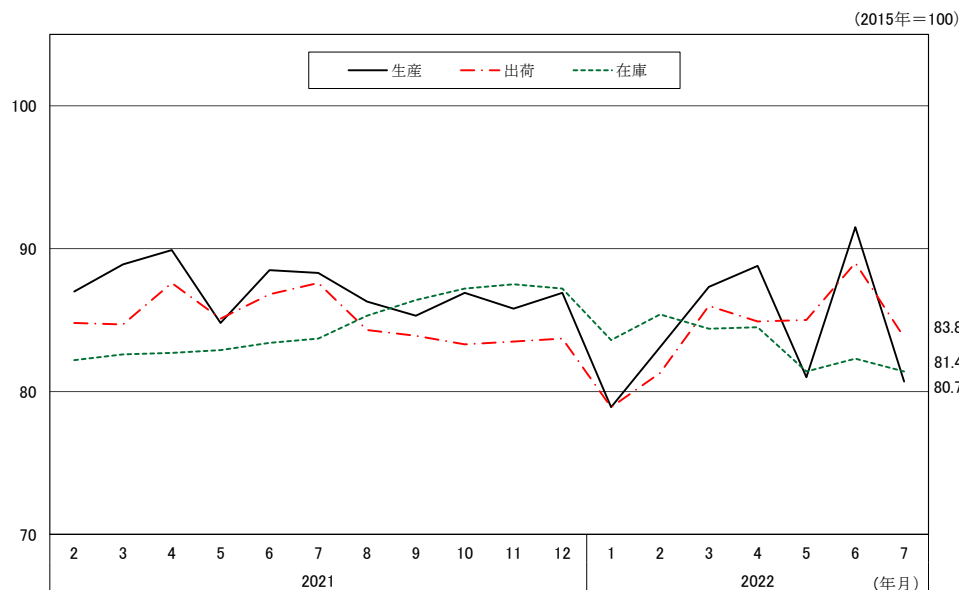
4 公共工事 ~横ばいとなっている



8月の公共工事請負額は350億円、前年比3.0%減となった(2か月連続の減少)。5か月後方移動平均では前年比19.2%増で推移。発注者別で見ると都道府県、市区町村、地方公社は増加したものの、国、独立行政法人等は減少した。

5 生産活動～持ち直しの動きがみられる

鉱工業生産・出荷・在庫指数(季節調整済)



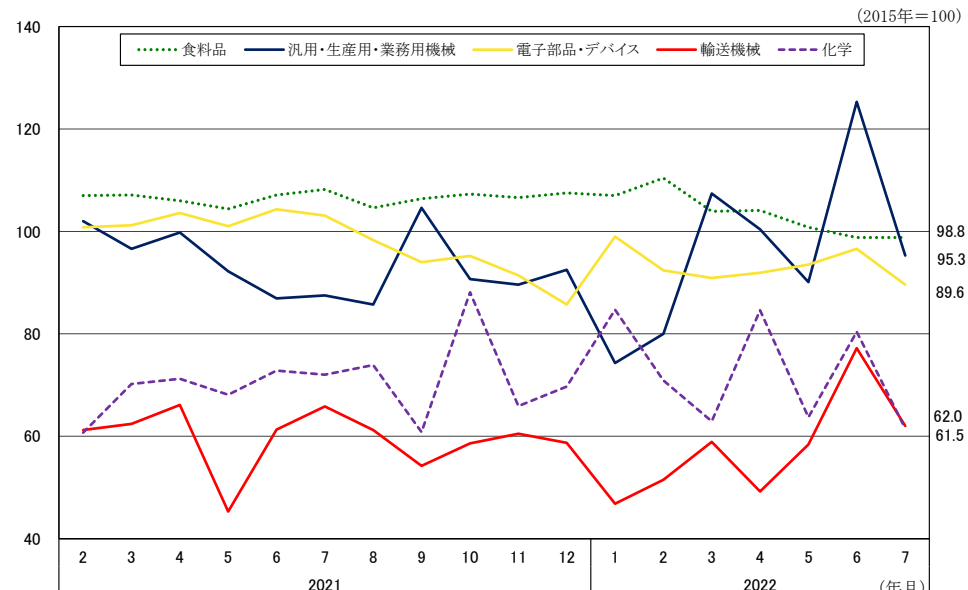
(資料) 埼玉県

7月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、80.7で前月比11.8%低下(2か月ぶりの低下)。家具(システムキッチン、流し台・ガス台・調理台)、汎用機械(空気圧機器、固定比減速機)などが上昇したが、生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、半導体製造装置)、化学(医薬品、化粧品)などが低下した。

出荷指数(同)は、83.8で同5.8%低下(3か月ぶりの低下)。電子部品・デバイス(混成集積回路、線形半導体集積回路)、鉄鋼(鋼半製品、粗鋼)などが上昇したが、生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、半導体製造装置)、業務用機械(パチンコ、医療用機械器具)などが低下した。

在庫指数(同)は、81.4で同1.1%低下した(2か月ぶりの低下)。生産用機械(マシニングセンタ、整地機械)、鉄鋼(普通鋼小形棒鋼、鋼半製品)などが上昇したが、輸送機械(乗用車、輸送機械用エアコン)、電子部品・デバイス(混成集積回路、線形半導体集積回路)などが低下した。

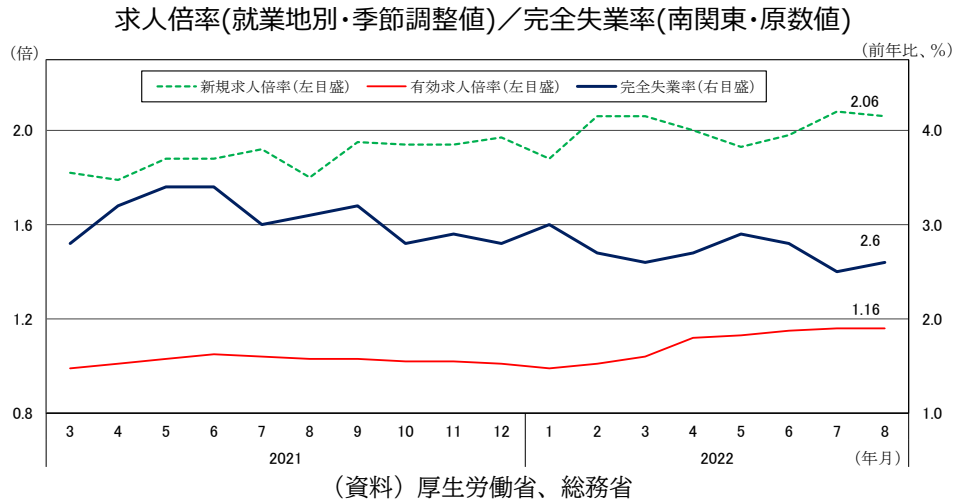
主要業種の生産指数(季節調整済)



(資料) 埼玉県

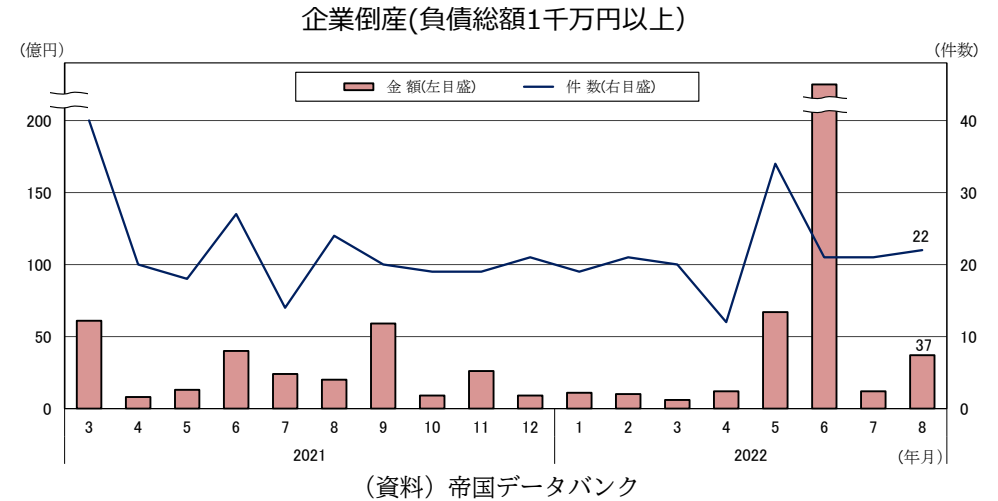
- ◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、98.8で前月比横ばいとなった。
- ◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、95.3で同23.9%低下、2か月ぶりの低下となった。
- ◆ 電子部品・デバイス(同)は、89.6で同7.2%低下し、4か月ぶりの低下となった。
- ◆ 輸送機械(同)は、62.0で同19.7%低下し、3か月ぶりの低下となった。
- ◆ 化学(同)は、61.5で同23.5%低下し、2か月ぶりの低下となった。

6 雇用情勢 ～穏やかに持ち直している



8月の有効求人倍率(就業地別、季節調整値)は、1.16倍で前月比横ばいとなった。また、新規求人倍率(同)は、2.06倍で前月比0.02ポイント低下した(3か月ぶりの低下)。
完全失業率(南関東、原数値)は、2.6%で前年同月比0.5ポイント低下した(前年同月比6か月連続の低下)。

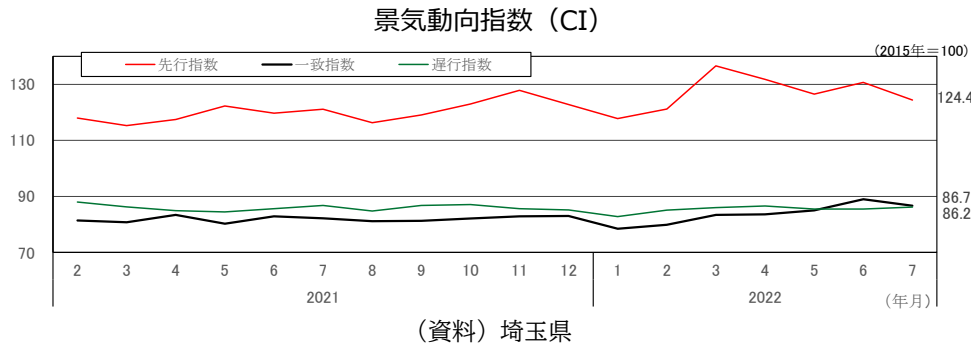
7 企業倒産 ～件数は横ばいで推移



依然としてコロナ対策としての政府の資金繰り支援策もあって、低水準で推移している。
8月の企業倒産件数は、22件で前年同月比2件の減少となった。負債総額は37億円で同17億円の増加となった。
業種別にみると、サービス業が最多で7件、次いで建設業が4件、製造業、卸売業、小売業がそれぞれ3件と続いている。主因別では、販売不振が17件となっている。

〈参考〉

景気動向指数(CI) ～改善を示している



- 7月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、86.7で前月比2.3ポイント下降し、6か月ぶりの下降となった。
- CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、124.4で同6.3ポイント下降し、2か月ぶりの下降となった。
- CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、86.2で同0.7ポイント上昇し、3か月ぶりの上昇となった。